

平成30年度重点プロジェクト事業（国際学会発表等旅費）報告

23rd Annual Congress of the European College of Sport Science (ECSS DUBLIN 2018)における研究発表

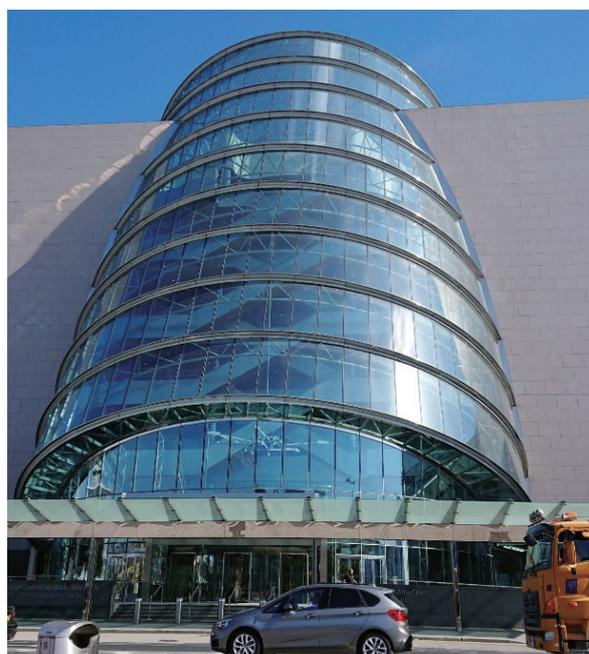
小松 崇志*

はじめに

平成30年度重点プロジェクト事業（国際学会発表等旅費）の助成により、平成30年7月4日から平成30年7月7日までの日程で、アイルランドのダブリンにて開催された23rd Annual Congress of the European College of Sport Science（第23回ヨーロッパスポーツ科学学会：以下、ECSSと略す）に参加し、我々の研究成果の一部を発表する機会をいただいた。本稿では、学会大会の様子および筆者の発表内容について報告する。

ECSSについて

当学会は、1995年にヨーロッパにおけるスポーツ科学のレベル向上およびスポーツに関する科学的な知識の普及とともに研究者間の交流を目的に設立された国際組織である。現在では約2000名の会員数を擁し、年に一回 Annual Congress を開催している。ヨーロッパを拠点とする学会であるにも関わらず、アメリカ、アジア、オセアニアなど世界中から、スポーツ科学領域の研究者が集まり、研究成果の発表および討論が盛んに行なわれている。今回参加した第23回 ECSS 学会においてもスポーツ科学を研究領域とする研究者や学生をはじめ、運動指導および実践者等の参加者で非常に盛況であった。学会大会中は、一般発表だけでなく「SPORTEX 2018」という協賛企業によるフロアでの展示や実践・体験コーナー等のプログラムが用意されており、企業と研究者による興味深いディスカッションが会場のいたる場所で行われていた。



ECSS 2018 の会場となった The CCD

研究発表について

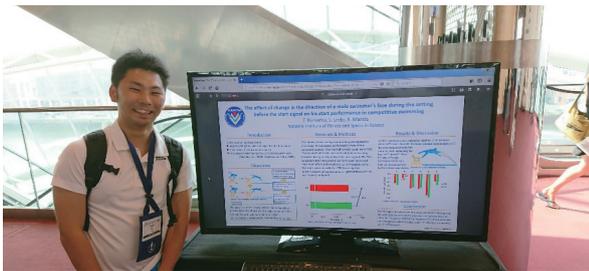
筆者は E-Poster Presentation（会場内に設置された PC にて掲載され、口頭発表のない発表形式）にて「The effect of change in the direction of a male swimmer's face during the setting before the start signal on his start performance in competitive swimming」というタイトルで発表した。その内容は、競泳における異なるスタート動作がパフォーマンスに及ぼす影響について検討するものであった。閲覧していただいた方からプロトコルの曖昧さを指摘していただき、研究方法の未熟さについて再認識することができた。

おわりに

今回の発表を通して、他者の研究発表から新たな

* 鹿屋体育大学大学院体育学研究科修士課程1年

な考え方を学ぶことができ、自分にとって非常に良い刺激となった。この度の経験は、今後の修士論文の作成や研究活動にあたり、有意義なものであったと感じる。また、今後も国際学会にて発表する可能性があることを見越して語学力の方も磨いていきたい。最後に、本学会大会への参加・発表を行なうにあたり、ご理解と多大なるご支援をいただきました。前田明教授および共同研究者の皆様に深謝いたします。



E-Poster Presentation の様子